

所沢市マスコット



豊かなみどり あふれる笑顔 みんなで明日をつくるまち所沢

第21号

環境会報

所沢市環境推進員連絡協議会

発行責任者 会長 毛利 吉成

自然と寄り添う工夫を

所沢市環境推進員連絡協議会 会長 毛利 吉成

環境推進員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

今年度も春の「環境美化の日」にはじまり、ゴミの分別・出し方、「もったいない市」を開催しながらの拠点回収事業への協力、さらに航空公園外周道路清掃、環境講演会など各種キャンペーンやイベント活動をとあし、ご活躍をいただきました。おかげさまで連絡協議会の事業は、円滑に推進する事が出来ました。ご協力に感謝申し上げる次第です。

先般、開催いたしました環境講演会は、「大槌町の復興に向けた展望と課題」と題し、岩手県大槌町長 碓川 豊氏に御講演をいただきました。推進員の皆様をはじめ大勢の方々にお越しいただきました。被災時の様子、そして復興に向けての熱意、強い郷土愛に、多くの方々が胸熱く「忘れまい、3・11!!」の思いを新たにされたのではないのでしょうか。

昨年は一ときわ熱い夏でしたが、“みどりのカーテン”で凌ぎました。そして冷たく寒い冬でもありましたが暖房は、経済温度で我慢しました。自然と寄り添った工夫と少しの我慢で過ごす。これこそが

“もったいない”の言葉を形にした「自然と人」との関わりの中で共に実践した3R推進活動ではないのでしょうか。

日本各地では、水害、地震、豪雪など災害に見舞われた年でもありました。私たちの住む所沢は、このような自然災害とは無縁のように思えます。ともすれば自然への畏敬の念を忘れていく日々です。仮設住宅で居られておられる方、故郷を離れた方々の思いは、推し量ることは出来ません。安閑とした日常生活で“寒い、暑い”のちょっとした我慢は、何の苦にもなることではありません。痛みは「共に」分かち合う、こんな当たり前な行為も心の支援につながることでしょう。

安全で安心な所沢を更に快適な所沢にしていくなために推進員皆様の「エコ活動こそが」動け所沢”の原動力になると思う次第です。



環境講演会「大槌町の復興に向けた展望と課題」を聞いて

三ヶ島地区 小嶋 しづ子



1月23日、所沢ミュージアムに岩手県大槌町長の碓川豊様をお招きして、環境講演会が開催されました。平成23年3月11日、東日本大震災とそれに続いて起こった大津波が東北地方を襲いました。美しい海岸、青い海が突然見たこともないような大きい津波となって押し寄せてきたのです。静かでのどかだった町を一飲みにして、どこまでも、どこまでも追いかけてきたのです。私たちはテレビで凄まじい光景を連日目にし、言葉もなくただ茫然としながら、映画の一場面であって欲しい、うそであってほしいと願っていました。大変なことが起きていたのです。私は仏壇に灯りをともし、手を合す毎日でした。車も家も船も人も多くのものが流され、NHK「ひよっこりひょうたん島」のモデルになった蓬莱島の灯台も被害を受けるなど、大槌町は壊滅的な被害を受けました。町役場は町長をはじめ多くの職員が犠牲

になり、その機能を失ったのです。

あの災害から2年の月日が経ちますが、未だ復興は思うように進まず、町長のご苦勞を痛いほど感じました。人々の生活が落ち着くのはまだ先の事なのですが、全国の方々のご支援により少しずつ前に進んでいるとお話でした。

お聞きしたお話を無駄にしないように、私はあの日の我が家のことをいろいろ思い浮かべておりました。災害時を想定し日頃から家族で話し合いをしておくこと。津波はてんでんこで逃げる。自分の命は自分で守ること。...

大槌町という船は明日に向かって確かに動き始めたようです。碓川町長様の復興にむけたさまざまの取り組み、その情熱と真摯な姿勢が私たちの心に響く講演会でした。



所沢市環境推進員連絡協議会視察研修に参加して

山口地区 新居 亨一

平成24年度の視察研修（11月6日～7日）は、仙台市にある宮城県災害廃棄物処理施設（宮城東部ブロック）と石巻市の被災現場を訪問しました。

宮城県災害廃棄物処理施設では、我々のために貴重な時間をとっていただいた県とJV（特定業務共同企業体）の方々の説明を聞き、津波で流された小型船舶や家屋・家財ゴミの山々とそれらの分別処理工程を見学しました。

津波災害による廃棄物は、泥にまみれているいろいろなものが混じっているため、分別にたいへんな手間がかかるということを知りました。



石巻市では、ボランティアの案内で被災現場を回りました。かなり片付けられたとはいえ、あちこちで瓦礫や車が山積みになっており、津波の威力・恐ろしさを実感しました。

海に近い小学校は津波と火災で廃墟のようになっていました。幸いなことに、学校にいた子供たちは、日頃津波の避難訓練をやっていたので、整然と裏の高台に避難したそうです。



海岸に近い住宅地では雑草だけが生き茂り、寂寥とした跡地に立って、黙祷をしました。そこに住んでいた人々の声が今でも聞こえてくるように思いました。



今回の研修では、自分の目で被災地の現状を確認することができました。復興に向けた力強さも感じることができました。研修に参加した皆さんも、それぞれにいろいろなことを感じ、持ち帰ることができたと思います。

環境展示会「エコプロダクツ2012」の見学会に参加して

並木地区 大輪 絹子

12月13日、東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2012」に行ってきました。並木地区からの参加者は4名でしたが、同行の丸山さんが、「先に昼食を済ませて、僕の興味のある電気関係のところから、見に行きましょう」と提案してください、家電コーナーを皮切りに、太陽光発電コーナーを見て、近くのコーナーを次々と見学。中野区の主婦4人組の、鉛細工から出た切れ端を、さらさらの状態にして瓶詰めにして、大学芋のたれを販売している小さいコーナー、インドから安いミニトラックを輸入して、エンジンを電気に付け替えて、農作業など、狭い路も走れる使いやすそうな真っ赤なかわいい車のコーナーなど。九州の九重町から出



展された間伐材の木目を生かしたトートバッグやビジネスバッグは美しく、品があってよ

かった。将来足が弱くなったときに、便利そうだと考えた4輪車なのに免許証の要らないミニバイク、パルパル。

後でパンフレット見たら試乗できるとあったので試乗してみればよかった。グッズをくれるところがあり、何箇所か回り、最後にUCCコーヒーのコーナーで、クイズに答えてコーヒーをご馳走になり、トートバッグをゲットしました。帰りのバスの中で、一人ひとり感想を述べ合いました。

私は、初めてでしたが、同行者に恵まれ、自分なりに充実した見学でした。各所からもらったパンフレットを読んでみて、日本人は、すばらしいなと思いました。子供さんたちの見学が多かったことも、頼もしく感じられた一日でした。



みんなで「環境美化の日」に清掃しよう！

小手指地区 岡田 静佳

春と秋に行われる「環境美化の日」の一斉清掃活動は、街が綺麗になるのでとても爽やかな気持ちになります。この日はみんなが力を合わせ道路や公園等の公共の場に放置されたゴミを撤去します。今までで一番印象に残っているのは、ガードレールにバイク用の鎖でくくりつけてあった違法看板が撤去できずに、試行錯誤の末、工事用の器具で切断したことがありました。一人では撤去できないような大きなゴミもみんなで力を合わせればなんとかなると言う事を実感いたしました。



最近では学生のインターンシップという職業体験が流行っておりますが、私のところにも日大の学生が

議員インターンシップをしたいと来たことがあります。何を経験してもらえば良いか悩みましたが、市議会の傍聴をしてもいきなり議員になれるわけではありませんので、環境美化の日の掃除のお手伝いから経験してもらいました。社会人となった彼とはたまに連絡を取り合いますが、掃除からスタートするとは思わなかったが勉強になったと今でも言ってくれます。

もうすぐ四歳になる息子も毎年、張り切って掃除に参加してくれているので良い環境教育になっていると考えています。

良いところばかりの環境美化の日ですが、全市民が参加していないのが残念です。地域コミュニティの重要性が叫ばれている今だからこそ、より多くの方に参加していただき、みんなで協力して清掃活動をしたいですね。



資源となるものを拠点回収しているのをご存知でしょうか

新所沢地区 久下 紀世

ご家庭で不用となった、廃食用油、単一素材プラスチック、CD・DVD・ビデオテープ等、牛乳パックは、市の拠点に持ち込めば資源化されます。

資源になる物は、簡単に捨てない意識が大切です。ゴミを捨てる前に、もう一度それが資源になるか考える習慣が、大切なのではないのでしょうか。

一人ひとりが少し努力すれば、沢山の資源が集まります。限りある資源を大切にするため、皆さんと一緒に取り組んでいけたらと思っています。



<主な拠点回収の場所>

主な拠点 (回収日)	廃食用油 (毎月第1・3土曜※)	単一素材 プラスチック (毎月第2土曜)	CD・DVD・ ビデオテープ等 (常設)	牛乳パック (常設)
まちづくりセンター	○	○	○	○
コミュニティセンター	○	○	×	○
ラーク所沢	○	○	×	○
椿峰コミュニティ会館本館	○	○	×	○
市民武道館	○	○	×	○
各消防署	○	○	×	×
保健センター	○	○	×	×

※廃食用油は第1土曜に回収する拠点と第3土曜の拠点があります。詳しい日程は、所沢市のごみ分別パンフレット「家庭の資源とごみの分け方・出し方」等をご覧ください。

真の文明は人を殺さず

環境コラム

柳瀬地区 丸山 千尋



もうすぐ春、咲き乱れる花が待ち遠しい。しかし、地球のご機嫌はかんばしくない。それは仮の間借人でしかない人間どもが浅知恵を使ってエゴ丸出しで自分さえ良ければ結構と、エコを無視し、ふんだんに冷暖房を使い、自動車、飛行機などに乗り、ふんぞり返っているからである。

春一番の風が吹き、花粉が舞い、四月ともなれば偏西風のり中国の砂漠から黄砂がやってくる……。などとのんきなことを考えていたら、この一月末からPM2.5という未曾有の毒を含んだ微小粒子状物質が中国で発生、すでに日本の上空に達しているという。PM2.5は車、暖房、工場などの排ガスに含まれる直径2.5マイクロメートル以下の微小物質で肺の奥まで入り気管支炎や喘息、ガンなどを引き起こすという。石原環境相はあわてて2月9日、PM2.5の緊急行動計画を発表し、監視態勢を強化した。

中国環境省は低品質の石油、石炭の使用を禁止したり、車の走行規制や車の販売中止などに乗り出す

ことを発表しているが、事態は深刻である。今、中国はかつての日本の高度成長期に似て大量生産・大量消費の時代に入っており、そこにはダイオキシンその他の思わぬ有害汚染物質が発生するという方程式を先輩国として中国に示唆する責任もあろう。

日本の鉱山公害の原点は栃木県の渡良瀬川上流にある足尾銅山である。そこから流出するタンパン毒（硫酸銅）を徹底的に追求したのは田中正造(1841～1913)で、社会公益を害することの意から公害、パンフレット「足尾銅山鉱毒渡良瀬川沿岸被害事情」から鉱毒といういづれも日本では初めての言葉を誕生させた。そして田中正造氏の日記には「真の文明は山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし」とあったという。地球という素晴らしい家主への尊敬を人間は失ってはならないということか。



田中 正造

航空公園外周道路清掃

一年に一度、各地区環境推進員が10月に航空記念公園に集まり、実施しているこの活動、同公園では毎年10月末に所沢市民フェスティバルが開催され、市内外から多くの方々が訪れることから、少しでも気持ち良く利用してもらいたいとの思いから平成18年に始まったものです。

今年も環境推進員513名が参加し、10月20日（土）に開催されました。当日は藤本市長も参加され落葉掃き等を行い、環境推進員と汗を流しました。



歩きたばこ等防止啓発キャンペーン

11月13日(火)、午後6時から市内8駅の14出口で歩きたばこ等の防止啓発キャンペーンを実施しました。キャンペーンには各地区の環境推進員241名が参加し、約1時間喫煙マナーの向上を呼びかけました。今回は(埼玉県西部地域まちづくり協議会)の構成団体である飯能市・狭山市・入間市との共同キャンペーンとなり、4市がそれぞれの駅頭で歩きたばこ等の防止を呼びかけました。



「レジ袋削減・マイバッグ推進 街頭キャンペーンを実施しました」

昨年10月18日、所沢駅西口で、市役所資源循環推進課が主催する「レジ袋削減・マイバッグ推進街頭キャンペーン」。

このキャンペーンは、マイバッグを持参することによって、無駄なレジ袋を削減し、ごみの減量や地球温暖化の防止を図ることを目的としたもので、当日は、開始前より行列ができる中、23名の環境推進員が啓発用マイバッグを配布し、用意したマイバッグ1,000個があつという間になくなりました。

また、このキャンペーンは3月11日に、市役所1階市民ホールでも開催され、市のイメージマスコット「トコロん」の絵柄を入れたマイバッグ1,000個を配布しました。



編集後記

2月下旬、東京有楽町「交通会館」で開催された写真展「リメンバー大槌」を見に行ってきました。大槌町民が震災時に偶然撮った写真を展示し、被災地のことを思い出してほしいと、企画されたものです。会場で、大槌町の碓川町長さんとも再開、しばし歓談しました。被災地に対する思いを“忘れない、風化させまい”、と改めて感じた一日でした。(M) 編集長：荻野義雄(三ヶ島) 委員：魚島克巳(新所沢東) 久下紀世(新所沢) 新居亨一 <http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/> 環境推進員連絡協議会を検索してアクセスしてください。